

京極読書新聞 <第3号>

発行日 平成21年 6月 1日(月)
京極町生涯学習センター湧学館

植物に触れるということ

湧学館 佐々木 和恵 (ささき・かずえ)

私の故郷は梅とみかんの畑に囲まれた和歌山県の山間部、雪が降ることはほとんどなく、年中みかんが穫れる暖かい土地です。和歌山にいたころ、自然はいつもそばにありましたが、早春2月に菜の花が咲き、入学式4月に桜が咲き、秋にはどこからともなく金木犀の甘い香りが漂っていても大して気にもならず、季節を彩る花たちにあまり興味がありませんでした。

そんな私が「お花大好き！」になったのは、北海道の見事に鮮やかな四季の移り変わりを見せたいです。大学進学を機にやってきた憧れの地、北海道。菜の花も桜も梅も・・・とにかく一気に咲く春が来て、その後に来る、短い夏を咲き誇る花々、黄色と赤の紅葉の秋、とにかく真っ白な冬、目を奪われずにはいられません。

通常私は農業高校で農業教員として高校生と一緒に勉強しています。担当科目は草花です。農業高校には牛や豚などの動物もいますし、野菜も作っています。教材はすべて命あるものです。私の仕事は土や動物、植物を通して命を感じながら、未来を担う若者たちと勉強する仕事です。始めにもお話ししたように私は元々花好きでしたが、生徒たちと一緒に勉強する中で、植物の見方が随分変わってきました。

まず、植物も人間も同じだということ。みなさんもご存知の通り、植物は私たちのように「暑い、のどがかわいた・・・」などとは言いませんし、暑いからといって日陰に移動したりもしません。時間をかけてじっくり環境に適應していきます。適應できなければ枯れていきます。そのひた向きで潔い生き方に凄さを感じます。人間よりよほど肉体的にも精神的(心があるかどうかという話は別として。)にも強い生物なのかもしれない・・・。そんなふうに見える植物を見たとき、その視点はもっと広く、林や森、地球全体に移っていきます。

「先生、人間って地球の問題児じゃない？動物も虫も森の木や花も、何億年もみんなでもバランスとりながら地球で仲良くやってきたのに、地球の歴史の中では新参者の人間が、地球のバランスを破壊しまくってるよね。」、ある時そんなことを言った生徒がいました。私も「それは言えてるな。」と思いました。

私にとって、植物に触れ、土に触れることは、命に触れ、生物としての自分の存在を考え、地球を考えていくことにつながっています。何も言わず、多くを語っている、それが植物の凄さです。

今年1年、湧学館で今までと違った社会勉強ができる機会をいただきました。私が北海道に来たきっかけを作ったのは、中学時代に読んだ、倉本聰さんの「ニングル」という本です。湧学館の本棚にも並んでいます。花と同様、本も私にとってとても魅力的な存在。今年は本の魅力に存分に触れる一年にしたいと思っています。本に触れることが自分にどんな変化をくれるのか？楽しみです。

最後になりましたが、利用者のみなさま、一年間よろしくお願ひします。



(5/30湧学館主催「園芸講座①」)



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

※ 佐々木先生は、倶知安農業高校で教鞭をとっておられますが、本年度は、北海道教育委員会の「教育長期社会体験研修」に応募され、一年間湧学館で研修されることになりました。



中学生にこの一冊!

◆ ラッセル・ブラッドン 「ウィンブルドン」

テニス4大トーナメントの一つウィンブルドン大会決勝戦を舞台に繰り広げられるサスペンス。ファイナリストとなった親友

でもある二人の相手を思いやる気持ちと、何より白熱した試合の描写が、まるで自分がセンターコートにいるような臨場感を感じさせられます。友情・スポーツ・サスペンスいろいろな読み方ができる小説でした。

湧学館 打越 靖子(うちこし・やすこ)

◆ 山中恒 「ぼくがぼくであること」

「おれがあいつで あいつがおれで」

おとなになってからですが、山中恒(やまなか・ひさし)さんの本を夢中になって読んだ時期があります。その中の一冊に「ぼくがぼくであること」があり、読んだ瞬間、中学1年生の時に見ていたNHKの夕方の少年ドラマを思い出しました。「ああ！この本が原作だったんだ！」

「ぼくがぼくであること」はとても大事なことです。人生のいろいろな場面でこの言葉がきこえてきます。伝説のロック・シンガー尾崎豊も「ぼくがぼくであるために～」と歌っていました。山中さんの本には、もう一冊「おれがあいつで あいつがおれで」という本もあります。

映画「転校生」の原作です。「ぼくがぼくであるため」には「おれがあいつで あいつがおれで」という発想の大転換が必要なんだということを山中さんは言っているのかもしれない。

湧学館司書 新谷 保人(あらや・やすひと)

◆ あさのあつこ 「復讐プランナー」

“復讐プランナー”とは、いじめに対する仕返しを計画したり、いじめをなんとか乗り越える方法を一緒に考えてくれる人のこと。復讐というと物々しいけれど、計画を実行するときは法律を犯さないようにきちんと配慮するところなんて、抜け目がない！まずは相手の調査から始めたりするところは、ちょっとした探偵のような雰囲気です。(やることは復讐なのですが)

主人公達が通う学校には、一般には知られていない裏の歴史があります。いじめにあった人だけに受け継がれるそれは、知る機会はないほうがいいけれど、意外というんなことに応用できそうですよ。相手を知ること、一人ぼっちだと思わないこと、溜め込みすぎずに発散させること、そして空でものんびり眺めること。眺めるのなら、天気の良い青空がおすすめです。

湧学館司書 向出 絵梨香(むこうで・えりか)

「平家物語読書会」が始まりました



(5/22湧学館主催「文学講座Ⅰ 平家物語読書会」)

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

